

● この劇を創った人たち ●

原作 げんさく げき (劇のもととなる話をつくった人) **H.C.アンデルセン**
構成・演出 こうせい えんしゅつ (セリフや俳優の動きをつくった人) **関矢 幸雄**
音楽 おんがく きょく (曲をつくったり、演奏や歌の指導をした人) **クニ 河内**
美術 びじゅつ ぶたい そうち (舞台の装置をデザインした人) **有賀 二郎**
制作 せいさく げき きかく (劇を企画した人) **秋山 英昭**

● この劇に出演する人たち ●

くす さだのり **楠 定憲** きょうもとさちこ **京本 幸子**
 おだ はるみつ **織田 晴光** みうらみほこ **三浦 美穂子**
 はらだくにはる **原田 邦治** たかはし ゆうこ **高橋 由布子**
 はやし だいすけ **林 大介** くろき さちえ **黒木 幸枝**
 のぐち とおる **野口 徹** ふじいしかな **藤石 夏菜**

この劇の特色

アニメイムってなに!?

アニメイムというのは、演出家 関矢幸雄氏の考案によるもので“アニメーション”と“パントマイム”からの造語です。身近にある棒とボールと輪という単純なものを使って、みんなの目に見える前で空間に風景や動物の絵を描いていきます。



ジャンルにこだわらない!?

舞台劇とか人形劇とかいうジャンルにとらわれない自由な発想の作品です。アニメイム、ペープサート(等身大の板人形)などを使って、コーラスと手話と、素劇(ほとんどものを使わず人間の身体のみで表現)で進めていきます。



童話の王様 アンデルセン ~「人生で三度読め」といわれるアンデルセンの童話~



じょうえんさくひん げんさくしゃ ねん せいたん ねん ちか 上演作品の原作者、H.Cアンデルセンは、2020年に生誕215年を迎えました。彼はデンマークの貧しい家庭に生まれながらも、多くの人の助けにより勉強し、生涯156編の童話をかきました。『あとむの時間はアンデルセン〜遊びバージョン〜』のお話しは、ほとんど原典の香りそのままに完訳したものを脚本とし、構成しています。「人生で三度読め」といわれるアンデルセンの童話。

“子どもには楽しく

大人になっては味わい深く、

老いては人生の素晴らしさを しみじみと感じさせてくれる”

ぜひ、みなさんも、アンデルセンの本を読んで下さい。

♪ あとむのうた

作詞・作曲 クニ河内

あとむのあは遊びのあ
 あとむのとは時計のと
 あとむのむは夢中のむ
 夢中で遊ぶ時間です

あとむのあは明日のあ
 あとむのとは扉のと
 あとむのむは向こうのむ
 扉の向こうに明日が見える

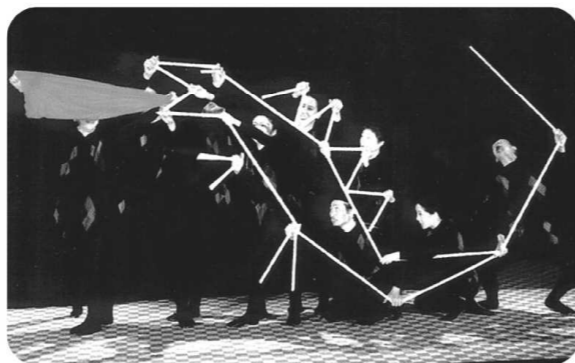
アカペラ・コーラス!

なんと見ても見る人の心をつかむのは9人の俳優(妖精)たちが、このお話をアカペラコーラスで歌って進めていくところです。もちろん、マイクなどは使わず、すべて生声。美しいハーモニーを楽しんで下さい。



劇について

『あとむの時間はアンデルセン〜遊びバージョン〜』は、アンデルセンの沢山のお話の中から選んだ、ふたつのお話、歌もいっぱい、アニメイムもいっぱいの音楽劇です。ふたつのお芝居の間に、◆アニメイムで遊ぼう◆というコーナーが入ります。アンデルセンは156編もの童話や物語をかきました。子どもにも大人にも、どんな人にも悲しい時、つらい時、もちろん楽しいこともあるものです。そんな人々のお話を沢山書きました。「人生への優しい眼差し」でかかれたお話を楽しいお芝居にしてみなさんへおくりします。



ものがたり

はじめのお話は

◆『パンをふんだ女の子』

きれいだけれど生意気で高慢なインゲル。靴を汚したくないためにぬかるみにパンを置いて、その上をふんで渡ろうとしたのですが沼の底に沈み、果ては地獄まで落ちていく。インゲルの救われる道は…。

◆アニメイムで遊ぼう!

さあ、アニメイムで遊ぼう!“輪くぐり”“ネズミレース”の参加ゲーム、元気な子出ておいで!

そして、俳優たちが棒とボールと輪っかで、空中にアニメイム!

さあ、何の絵ができるかな? 動物たちがイキイキと、舞台せましと走り回り、息もつかせず続きます。

そして、おしまいのお話は?

◆『とうさんのすることはみんなよし』

家でいらなくなった馬をなにかいいものにとりかえようと出かけていくとうさん。途中、色々

なものにとりかえていき、最後は腐ったリンゴに…

さあ、家で待つかあさんはどうするか?

令和5年度 学校巡回公演事業



〒169-0051
東京都新宿区西早稲田 1-4-18
稲穂ビル 202
TEL 03-6380-2852
FAX 03-6380-2853
E-mail atomw@pop12.odn.ne.jp
URL <http://www.atomw.co.jp>

劇団 あとむの紹介「想像から創造へ」

劇団あとむは1984年、演出家 関矢幸雄氏を創造リーダーに、クニ河内氏を音楽監督に迎え発足しました。子どもに必要なのはみてる力「想像力」です。その「みてる力」を培うため、ジャンルにとらわれない自由な発想で芝居作りをしています。

子どもたちが「人」の無限の可能性を感じ取れるよう、全て俳優たちの生の演奏による音楽劇であり、新鮮で生き生きした舞踊的表現も駆使します。ゆたかな感性を育てることは、違う人間の生き方を思い、認めあい、共に生き合う世界を作る力（創造する力）を育てることと確信して、創り続けています。



あとむの時間は 遊ぶ アンデルセン



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。
また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）
独立行政法人日本芸術文化振興会